

平成30年5月22日
産業経済局観光課

所管事務の調査

観光やMICEによる来訪者の消費喚起について

資料1 本市を訪れる外国人個人観光客の動向調査結果について

資料2 ビッグデータ等を活用した訪日外国人観光客の動向等調査
分析報告書（要約版）

資料3 ビッグデータ等を活用した訪日外国人観光客の動向等調査
分析報告書

本市を訪れる外国人個人観光客の動向調査結果について

◆調査目的

ビッグデータやアンケートデータを収集・分析し、外国人観光客の移動経路や嗜好を把握することで、今後のプロモーションや受地整備に活用するもの。

◆対象国・地域

香港の個人観光客

◆調査概要

1. ビッグデータ分析

携帯電話のローミングデータや口コミデータ、宿泊予約データなどを解析し、移動経路や宿泊地などの分析を行った。

2. アンケート調査（調査員による対面聞き取り）

(1) 九州を訪れた観光客に対する調査（北九州市・下関市を除く）

調査時期 平成30年2月

調査場所 福岡空港

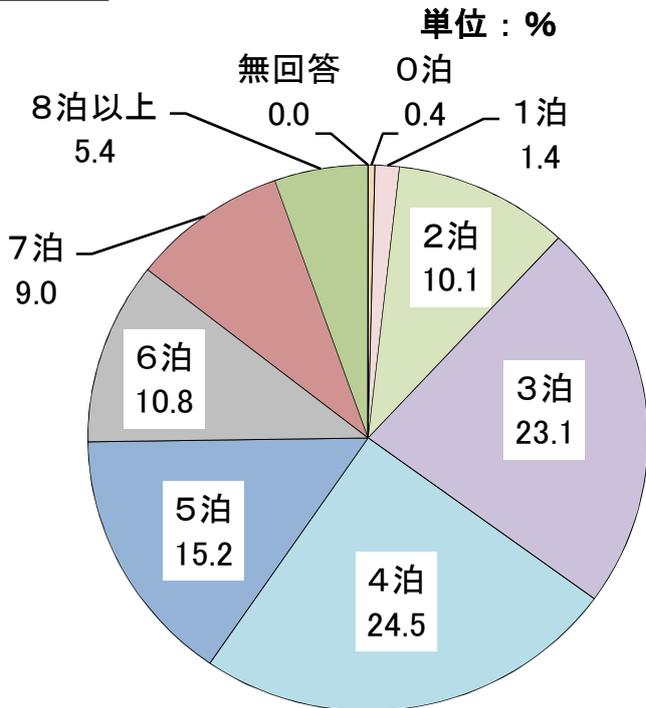
(2) 北九州市・下関市を訪れた観光客に対する調査

調査時期 平成30年2月～平成30年3月

調査場所 福岡空港・北九州空港・小倉城周辺・唐戸市場

九州を訪れている香港人個人観光客の動向 (北九州市・下関市を除く)

図 1



【平均宿泊日数】

●香港人個人旅行客の平均宿泊日数は

4.5泊

●韓国（2.3泊）の約2倍だが、

台湾（5.5泊）と

比べるとやや短い

福岡空港から入国する香港人観光客の行動パターン

図 2



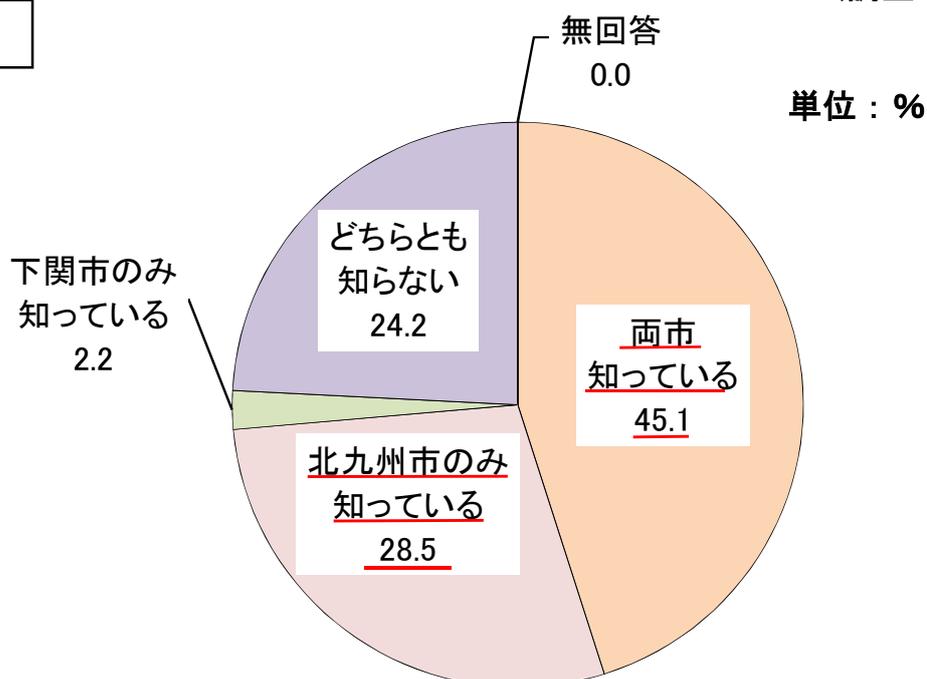
【行動パターン】

- 福岡都心部のみ
- 福岡都心部～大分県
- 福岡都心部～大分県～熊本県
- 福岡都心部～太宰府
- 福岡都心部～北九州
- 福岡都心部～長崎県
- 福岡都心部～熊本県
- 福岡都心部～北九州～大分

北九州市・下関市の認知度

(調査場所：福岡空港)

図 3

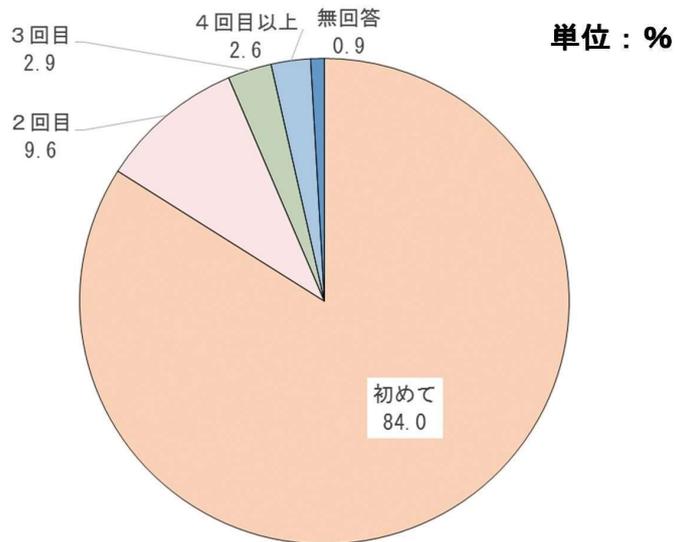


●本市を知っているが 73.6%
 (参考：韓国41.7% 台湾69.6%)

北九州市・下関市への訪問回数

○北九州市・下関市への訪問 初めて：84.0%、2回以上：15.1%

図4

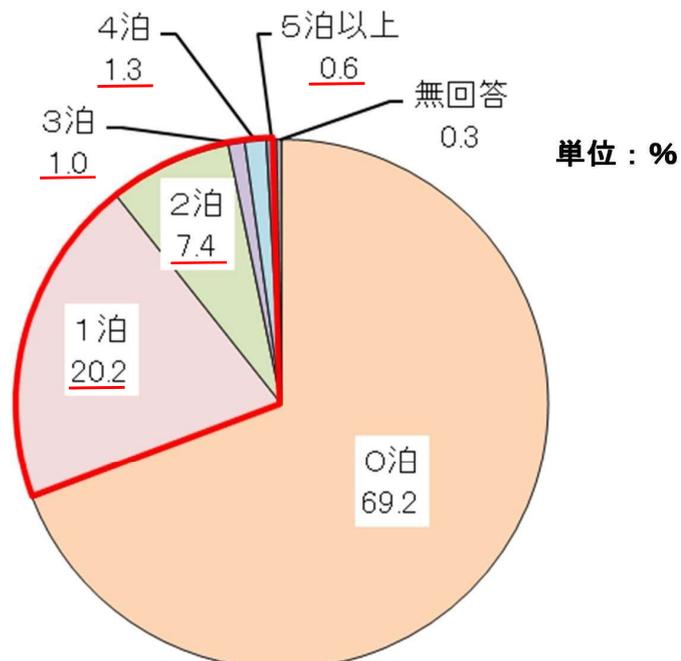


北九州市・下関市での宿泊数

○九州を訪れた旅行者の平均宿泊数：4.5泊

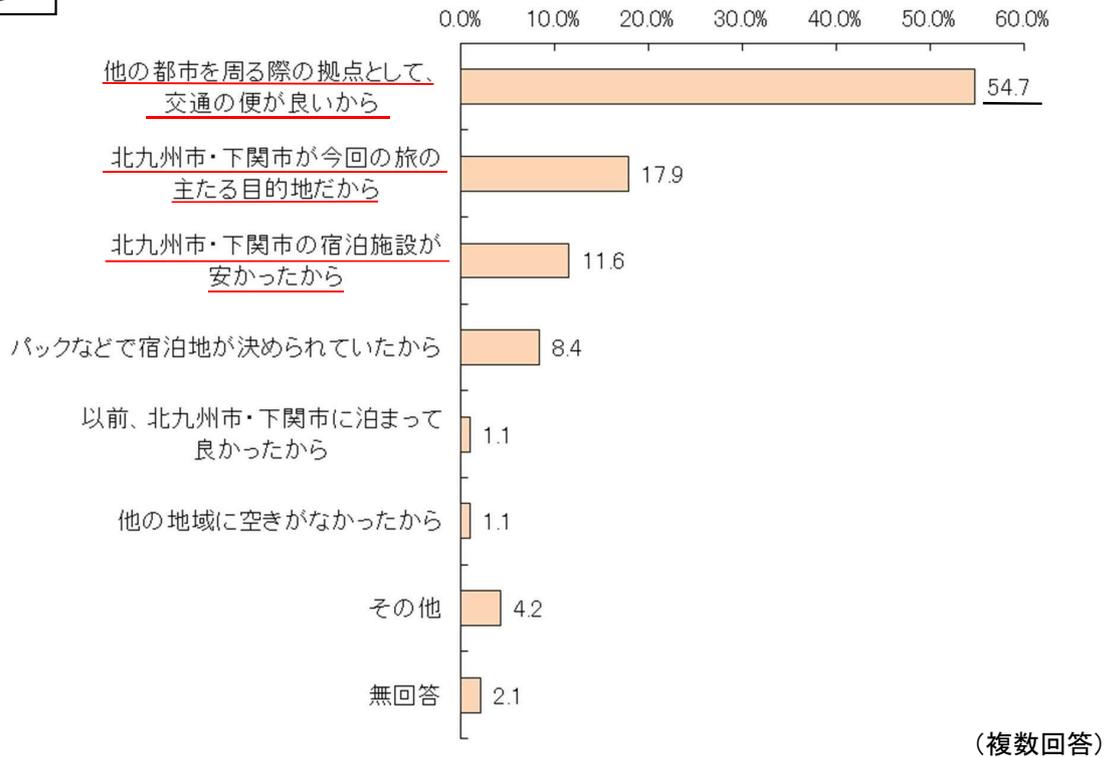
○北九州市・下関市での宿泊数：1泊以上は30.5%

図5



北九州市・下関市に宿泊した理由

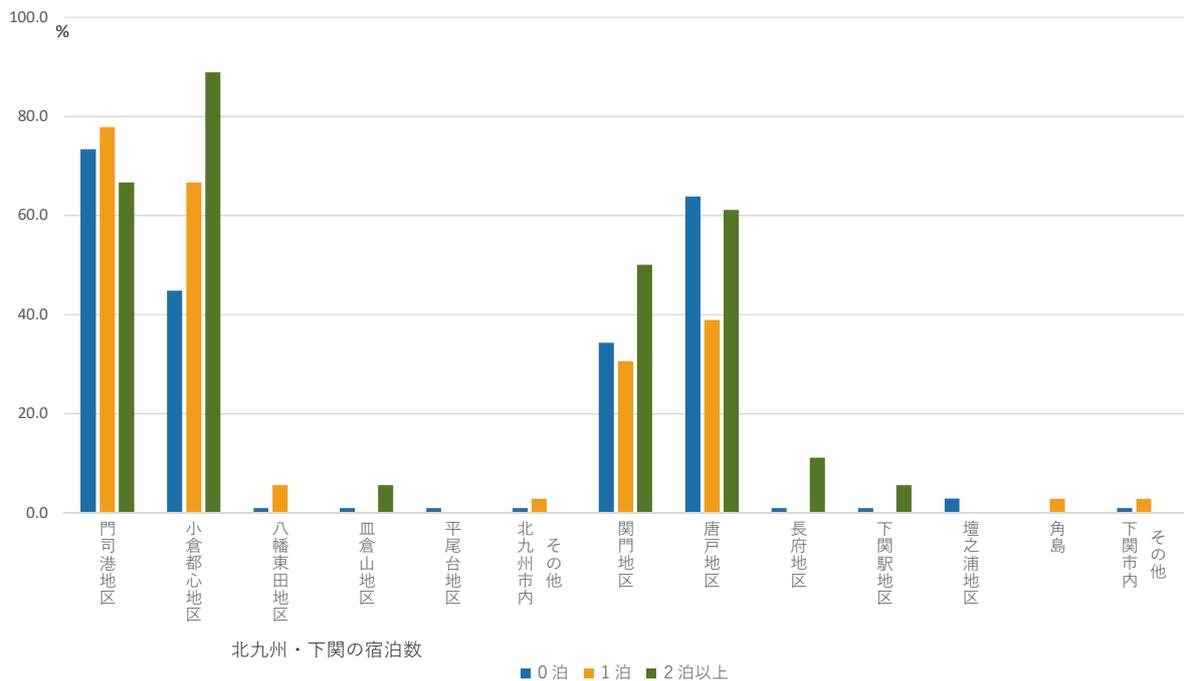
図 6



今回の旅行で訪れた観光地（北九州市・下関市）

(調査場所：福岡空港)

図 7



1人1回（旅行）あたりの旅行支出額（北九州市・下関市）

図 8

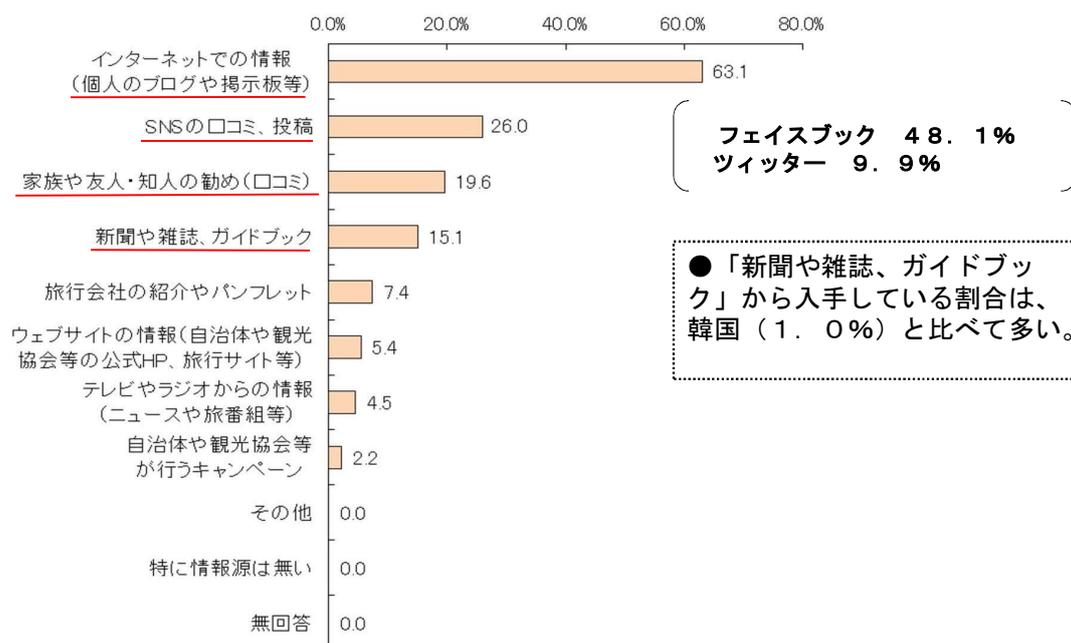
（単位：円）

	宿泊客	日帰り客	備 考
宿泊費	20,217		
飲食費	20,008	10,770	韓国 台湾 宿泊客 12,165円 宿泊客 6,313円 日帰り客 5,681円 日帰り客 3,562円
入場料	1,558	607	
買物・土産代	17,118	10,623	医薬品・健康グッズなど
その他の費用	806	308	
合計	59,707	22,308	

○北九州市・下関市を訪れる香港個人観光客の、1人1回あたりの旅行支出額は、宿泊客で59,707円、日帰り客は22,308円。

訪れる前の観光情報の入手先

図 9



（複数回答）

香港向けプロモーションの方向性

調査から分かったこと	今後の方向性
北九州市を初めて訪れる観光客が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心が高いコンテンツをインフルエンサー等を活用して発信するとともに、本市の多種多様な魅力ある観光資源を活字メディアも活用しながら情報発信。
本市の認知度が比較的高い。インターネット、SNS、雑誌等により観光情報を入手。	
九州での平均宿泊日数4.5泊（韓国の約2倍）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知名度は高いにもかかわらず日帰り客が多いことから、まだ知られていない市内を含む周辺地域の様々な情報を発信し、宿泊につなげる。 ・ 消費額が高い飲食の分野で、興味を惹きつけるような情報発信を行う。
北九州市・下関市では日帰りが多く、滞在が短い。韓国・台湾よりも旅行支出額（特に飲食費）が多い。	
拠点都市に滞在して、周辺都市を周遊する傾向がある。	

⇒ 「日帰り観光地」から「昼も夜も楽しめる街」へ

ビッグデータ等を活用した
訪日外国人観光客の動向等調査分析報告書
(要約版)

ビッグデータ等を活用した戦略的観光振興委員会

北九州市

下関市

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

一般社団法人 下関観光コンベンション協会

1 インバウムの現状

日本のインバウムの現状

平成29年の訪日外国人旅行者（インバウム）数は2,869万人

- 平成29年の訪日外国人旅行者（インバウム）数は2,869万人。
- 5年連続で過去最高を更新
- 政府が「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を開始した平成15年は訪日外国人旅行者は521万人であったが、一時的な落ち込みはあるものの年々増加している。
- 平成28年に政府が策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」で掲げられた平成32年に4,000万人、平成42年に6,000万人という目標に向けて順調に推移。

外国人旅行者の4分の3は東アジア4つの国・地域から

- 中国736万人（25.6%）、韓国714万人（24.9%）、台湾456万人（15.9%）、香港223万人（7.8%）となっている。

ゴールドルートから地方へ、大量購入から体験へ

- 東京、京都、大阪を中心としたゴールドルートから地方への拡散が進み、各地に外国人旅行者が訪れている。
- 全国の都市が特色を打ち出したインバウム誘致に取り組んでおり、都市間競争が激化。
- 訪日目的も「爆買い」と呼ばれた日本製品の大量購入（モノ消費）から、日本ならではの体験（コト消費）に移行。
- LCCなど航空路線の拡大により個人旅行者が増加傾向。多様化していく旅行者のニーズを把握し、戦略的なインバウム誘致が必要。

九州のインバウンドの現状

平成29年に九州を訪れた訪日外国人数は494万人

- 平成29年に九州を訪れた訪日外国人数は494万人。
- 全国の状況と同様に、増加の一途をたどっており、6年連続で過去最高を更新。
- 平成28年4月に発生した熊本地震の影響により、クルーズ船客等の特例上陸を除く外国人入国者数は、地震発生から2カ月は前年割れとなったものの、それ以降は徐々に回復が見られ、平成29年5月には特例上陸を除く対前年比が200%を超えた。
（出典：法務省「出入国管理統計」）

旅行消費額も大幅増加

- 九州、沖縄の「訪日外国人旅行消費額」では、平成26年に2,385億円、平成27年に4,882億円、平成28年に5,927億円と大幅な増加傾向。
（出典：日本銀行福岡支店
「九州・沖縄におけるインバウンドの動向と消費額の推計」）

外国人旅行者の大半は東アジア4つの国・地域から

- 平成28年の訪日外国人旅行者（国籍が特定できない一時上陸者を除く）の地域別構成比は、韓国、中国、台湾、香港の4つの国・地域で9割を超えており、全国と比較しても偏っている。
（出典：日本銀行福岡支店
「九州・沖縄におけるインバウンドの動向と消費額の推計」）
- 背景として「ビザ発給の緩和」や「LCC就航数の増加」などがあり、距離的にも近い手頃な海外旅行先として九州を選択。

全国の人気観光地に比べ低い認知度

- 東アジア地域における九州の認知度は50%を上回っているものの、全国的なゴールデンルート（東京、京都、大阪）、北海道、沖縄といった他の人気観光地の認知度（おおむね70~80%）と比べると低い。
- また観光地への訪問意欲については、東京、京都、大阪、北海道が50%前後であったのに対し、九州は約20%と開きがある。
（出典：日本政策投資銀行
「九州インバウンド観光振興に向けて
～DBJ・JTBF訪日外国人旅行者の意向調査（平成28年版）～」）

2 調査の概要

◆事業目的

日本を訪れる外国人旅行者が急速に増加する中、旅行者の行動範囲は、全国的なゴールデンルート（東京・京都・大阪）から地方へと拡散し、各都市がさまざまなインバウンド誘致に取り組み、都市間競争が激化している。

また、旅行の形態も、モノ消費からコト消費へと移行するなど変化を遂げており、旅行者のニーズを捉えるとともに、地域ならではの魅力を活かした施策が求められている。

そこで、携帯電話の移動ログデータの収集や宿泊データの収集、アンケート調査を行い、これらを総合的に分析することで、外国人観光客の行動パターンや嗜好を把握し、今後の戦略的・効果的なプロモーションや受入環境整備に繋げることを目的とするもの。

◆調査対象

韓国、台湾、香港の個人観光客

◆調査概要

1. ビッグデータ等による行動パターン分析

携帯電話のローミングデータやスマートフォン用アプリのログデータ、ロコミデータなどを解析し、移動経路や宿泊地などの分析を行った。

2. アンケート調査（調査員による対面聞き取り）

（1）北九州市・下関市の認知度調査

対 象：九州を訪れた観光客（北九州市・下関市を除く）

調査時期：平成29年9月～11月、平成30年2月

調査場所：福岡空港

国・地域	有効回収数
韓国	260
台湾	201
香港	277

（2）北九州市・下関市を訪れた観光客の実態に関する調査

対 象：北九州市・下関市を訪れた観光客

調査時期：平成29年9月～平成30年3月

調査場所：福岡空港、北九州空港（韓国のみ）、小倉城周辺、唐戸市場

国・地域	有効回収数
韓国	504
台湾	507
香港	312

九州旅行の行動パターン

ルート分析

FF-Data

- ◆ 県間流動量
- ◆ 福岡空港出国者周遊ルート

モバイル空間統計

- ◆ 発着地別流動量
- ◆ 訪問地2点間流動量

DiGJAPAN!

- ◆ 周遊ルート

アンケート(認知度)調査

- ◆ 周遊ルート

宿泊分析

宿泊旅行統計調査

- ◆ 県別宿泊者数

モバイル空間統計

- ◆ 昼間・夜間の滞在者数

Agoda宿泊数データ

- ◆ 宿泊数(平均泊数/連泊)

アンケート(認知度)調査

- ◆ 宿泊数
- ◆ 宿泊地の組み合わせと宿泊数 等

FF-Data

- ◆ 宿泊県の組み合わせからみる周遊ルート
- ◆ 周遊ルートからみる宿泊県の組み合わせ

DiGJAPAN!

- ◆ 宿泊地の組み合わせからみる周遊ルート
- ◆ 周遊ルートから見る宿泊地の組み合わせ

利用交通機関分析

FF-Data

- ◆ 福岡県を出発地とした県別利用交通機関

アンケート(認知度)調査

- ◆ 訪問地間利用交通機関

九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の行動パターン

ルート分析

アンケート(実態把握)調査

- ◆ 周遊ルート

DiGJAPAN!

- ◆ 周遊ルート

宿泊分析

Agoda宿泊数データ

- ◆ 宿泊数(平均泊数/連泊)

アンケート(実態把握)調査

- ◆ 宿泊数
- ◆ 宿泊地の組み合わせと宿泊数 等

利用交通機関分析

アンケート(実態把握)調査

- ◆ 北九州市・下関市への利用交通機関
(他地域から北九州市・下関市へ、
北九州市・下関市から他地域へ、
北九州市-下関市間)

北九州市・下関市を訪れた旅行者の 北九州市・下関市内の 行動パターン

ルート分析

アンケート(実態把握)調査

- ◆ 北九州市・下関市の周遊ルート
(主要訪問地、宿泊と日帰りの違い、
入国先による違い等含む)

利用交通機関分析

アンケート(実態把握)調査

- ◆ 市内の移動に用いた交通機関

3 ビッグデータ等による行動パターン分析

(1) 韓国編

九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の行動パターン

韓国人観光客は、入国先近隣の地域を、2～3泊の短期間で訪問していることから、福岡空港や博多港からの入国時と北九州空港や下関港からの入港時では異なる行動パターンとなるため、入国港別に行動パターンを分析した。

◆福岡空港・博多港入国の行動パターン

福岡都心部の宿泊をベースに、北九州市や下関市の訪問、さらに太宰府まで訪問するパターンの他、福岡都心部と由布院に宿泊し、北九州市や下関市を訪問するパターンが主な行動パターンであり、北九州市・下関市の宿泊は0～1泊程度と短い。

九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の主な行動パターン (福岡空港入国)	行動パターンの特徴
福岡都心部－北九州－下関	福岡都心部のみに宿泊するパターンが多く、北九州・下関へは宿泊しても1泊のみ
福岡都心部－太宰府－北九州－下関	福岡都心部のみに宿泊するパターンが多い
福岡都心部－北九州	福岡都心部のみに宿泊するパターンが多い
福岡都心部－北九州－下関－由布院	福岡都心部・由布院・北九州の3地域に宿泊するパターンが多い
福岡都心部－北九州－由布院	福岡都心部と由布院に宿泊し、北九州は日帰りするパターンが多い

【韓国 九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の主な行動パターン】
<福岡空港・博多港入国>



◆北九州空港入国の行動パターン

北九州市の宿泊をベースに、北九州市内や下関市、福岡都心部を訪れるパターンが主な行動パターン。

北九州市・下関市での宿泊は2泊程度で、福岡空港・博多港入国の場合よりも長い。

九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の主な行動パターン (北九州空港入国)	パターンの概要
北九州ー下関	北九州のみに宿泊するパターンが多い
北九州	北九州に宿泊し、北九州内のみを周遊するパターン
北九州ー福岡都心部ー下関	北九州のみに宿泊するパターンが多い
北九州ー福岡都心部	北九州のみに宿泊するパターンが多い
北九州ー下関ー別府	北九州と別府に宿泊するパターンが多い

【韓国 九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の主な行動パターン】
 <北九州空港港入国>



(2) 台湾編

九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の行動パターン

北九州市・下関市を訪れる台湾人観光客の行動パターンは、福岡空港入出国で、福岡都心部や大分県、熊本県を中心に北部九州の地域を組み合わせた多様なパターンとなっている。

福岡都心部のみ、あるいは福岡都心部と大分県に宿泊し、各地を日帰りで周遊しているパターンが多く、北九州市・下関市へも大多数が日帰りで立ち寄っていると考えられる。

九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の主な行動パターン	行動パターンの特徴
福岡都心部－北九州－大分県	福岡都心部と大分県に宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部－北九州－下関	福岡都心部だけに宿泊するパターンが多い
福岡都心部－北九州－大分県－熊本県	北九州に宿泊するパターンは少ない
福岡都心部－北九州－下関－大分県	福岡都心部と大分県に宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部－北九州	福岡都心部にのみ宿泊するパターンが多い
福岡都心部－北九州－下関－大分県－熊本県	福岡都心部と大分県、熊本県に宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部－太宰府－北九州－下関－大分県	福岡都心部のみ、または福岡都心部と大分県へ宿泊するパターンが多い

【台湾 九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の主な行動パターン】



(3) 香港編

九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の行動パターン

北九州市・下関市を訪れる香港人観光客の主な入出国地は福岡空港で、福岡都心部、あるいは福岡都心部と大分県に宿泊し、北九州市・下関市は日帰りで訪れるパターンが多い。

福岡都心部または福岡都心部－大分県を軸とするパターンと福岡都心部－太宰府を軸とするパターンがある。

九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の行動パターン	パターンの概要
福岡都心部－北九州－下関－大分県	福岡都心部と大分県に宿泊するパターンが多い
福岡都心部－北九州－下関－大分県－熊本県	福岡都心部と大分県、熊本県の3地域に宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部－北九州－大分県	福岡都心部と大分県に宿泊するパターンが多い
福岡都心部－北九州－大分県－熊本県	福岡都心部、大分県、熊本県のそれぞれで宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部－北九州	福岡都心部のみに宿泊するパターンが多い
福岡都心部－北九州－下関	福岡都心部に宿泊し、北九州・下関を日帰りで訪問するパターンが比較的多い
福岡都心部－太宰府－北九州	北九州でも宿泊するパターンが比較的多い
福岡都心部－太宰府－北九州－下関	福岡都心部に宿泊し、各地域を日帰りで訪問するパターンが多い
福岡都心部－太宰府－北九州－下関－大分県	福岡都心部と大分県に宿泊するパターンが比較的多い

【香港 九州旅行で北九州市・下関市を訪れた旅行者の主な行動パターン】



4 調査から見えてきたこと

韓 国

- ・北九州市を初めて訪れる観光客が多い。
- ・九州での平均宿泊数は2.3泊。
- ・北九州空港を利用した観光客の宿泊率が高い。
- ・北九州市・下関市のみを周遊している観光客も多い。
- ・北九州市の認知度が低い。現地において、個人ブログ、SNS等により観光情報を入手。

台 湾

- ・北九州市を初めて訪れる観光客が多い。
- ・旅の主たる目的地になっていない。
- ・九州での平均宿泊数は5.5泊（韓国の2倍以上）。
- ・北九州市・下関市では日帰りが多く、滞在が短いため、韓国よりも旅行支出額が少ない。
- ・拠点都市に滞在して周辺都市を周遊する傾向がある。
- ・主な情報源はインターネット及びSNSに加え、旅行会社の紹介及び家族・知人からの口コミも情報源となっている。

香 港

- ・北九州市を初めて訪れる観光客が多い。
- ・本市の認知度が比較的高い。個人ブログ・SNS・雑誌等により観光情報を入手。
- ・九州での平均宿泊日数は4.5泊。
- ・北九州市・下関市では日帰りが多く、滞在が短い、韓国・台湾よりも旅行支出額（特に飲食費）が多い。
- ・拠点都市に滞在して周辺都市を周遊する傾向がある。

北九州市・下関市に来た観光客の特性

() = 九州

		韓国	台湾	香港
情報源	インターネット	79.8%	63.3%	63.1%
	SNS	14.1%	24.9%	26.0%
来訪目的	口コミ(家族・友人)	14.9%	31.0%	19.6%
	新聞、雑誌、ガイドブック		9.3%	15.1%
来訪目的	食事	35.3% (25.0%)	44.2% (28.9%)	48.4% (19.5%)
	名所旧跡	23.4% (2.7%)	36.3% (7.0%)	32.7% (20.9%)
	自然景観	17.5% (5.8%)	15.4% (36.3%)	9.3% (19.5%)
宿泊割合		74.0 %	20.8 %	30.5 %
宿泊理由の1位	主な目的地	46.2%	33.7%	54.2%
	交通利便性	24.3%	26.0%	17.7%
	安い	16.0%	25.0%	11.5%
消費額	日帰り	14,252円 ・飲食費 5,681円	9,524円 ・飲食費 3,562円	22,308円 ・飲食費 10,770円
	宿泊	45,329円 ・宿泊費 14,393円 ・飲食費 12,165円 ・買い物・土産代 13,469円	31,358円 ・宿泊費 11,467円 ・飲食費 6,313円 ・買物・土産代 11,662円	59,707円 ・宿泊費 20,217円 ・飲食費 20,008円 ・買物・土産代 17,118円
動向		北九州市・下関市のみ の周遊も多い	拠点都市に滞在して周 辺都市を周遊	拠点都市に滞在して周 辺都市を周遊

5 プロモーションの方向性

韓国

「手軽な非日常」を様々に楽しめる街へ

- ・ 3日間以内の短期滞在者が多く、「手軽な非日常」として、食事や買い物をする傾向がみられる韓国人に対し、新鮮な情報（買い物、イベント等）を発信する事で本地域への来訪者を延ばす。
- ・ リピーターが多いため、北九州空港への定期便等を活用し、「様々に楽しめる街」として本地域へのリピーターの獲得を目指す。

インターネット・SNSの活用

- ・ 情報源の9割以上がインターネット及びSNSであるため、パワーブロガー等の活用により来訪のきっかけをつくり、来訪者にはSNSへ投稿を促し情報を広げる。

台湾

台湾と縁深いコンテンツを活かした「旅の拠点」として

- ・ 本地域の認知度や関心度は高く、福岡空港からの入国者の20%以上が本地域へ宿泊していることから、秋の定期便就航を契機として、本地域に宿泊して各地を巡る「旅の拠点」化を目指す。
- ・ 地域内の台湾と縁が深いコンテンツ（バナナの叩売りの元となった台湾バナナ、台湾鉄道と姉妹鉄道協定を結んだ鉄道等）の情報発信を行う。

旅行会社と口コミも活用

- ・ 情報源はインターネットやSNSに加え、旅行会社情報と家族、知人からの口コミも多い特性を活かし、フリーパス（鉄道、バス）等を活用したコース提案とツアー商品造成を旅行会社に働きかける。

香港

「日帰り観光地」から、「昼も夜も楽しめる街」へ

- ・ 知名度が高いにもかかわらず日帰り客が多いことから、まだ知られていない市内を含む周辺地域の様々な情報を発信し、宿泊につなげる。
- ・ 消費額が高い飲食での分野で、香港人の興味を惹きつけるような情報発信を行う。

活字メディア（新聞、雑誌、ガイドブック）の活用

- ・ 情報源はインターネットやSNSに加え、活字メディアも一定の情報源という特徴があることから、タイムリーな情報はインターネット、詳細な内容を活字メディアで発信する等、情報媒体の特性に応じた発信を行う。